

余坂 宝袋



余坂

○宝袋

総白木造りで、彫り物も白木でできていることが特徴の車山。

また、中山に人形を載せている点も特徴である。

これは「磨振り人形」と言われるもので、通称「余坂のべ口出し」と呼ばれ、異様な面相で真っ赤な長い舌を出し入れする。

一八四二年の大火で車山も焼失したが、一八七〇年に再造されて現在に至っている。車山名はからくりから付けられたが、夜車山の丸提灯には江戸時代の呼称である「二福神」と書かれている。

○からくり次第（二福神）

大黒人形が宝袋を前に左右に動く。正面を向いた大黒が早笛と共に槌（つち）振り下ろす。二つに割れた宝袋より小舟に乗った恵比寿（えびす）が舞い上がり、扇を開き大きくあおぐ。

それを見て大黒は、大きくうなずき、大喜びする。